

並木中等進路だより

No. 1

～前期生～

2013・4・25

夢に向かって・・・

前期生のみなさん、入学、進級おめでとうございます。新学期を迎えたこの4月、各々が新たな気持ちでスタートをきったことでしょう。

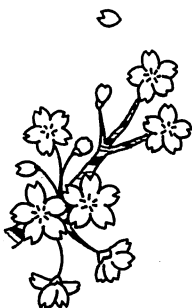
1年生のみなさんは、大きな夢を抱いて、この並木中等に入学してきたことと思います。今の気持ちを大切にしてください。この思いが、これから先の自分を支えてくれるものとなるはずですよ。

2、3年生のみなさんは、1年前、もしくは2年前に入学してきたときの気持ちを覚えていますか？今でもその思いを大切にしていますか？

人は「目標を持つ」ことで、いえ、目標があるからこそ努力し続けることができます。どんなに辛いことがあっても乗り越え、頑張ることができます。そして自分自身を成長させ、夢を実現できるのです。いろいろ学び、経験していく中で、夢や希望が変わることもあるかもしれませんが、でも、夢なくして実現はあり得ないのです。前期生には、勉強や成績だけにこだわるのではなく、その他たくさんの大切なことを学んでほしいと思います。「大切なことって何？」と思うかもしれませんが、学校にはたくさんの宝物が散りばめられていますよ。

みなさんも知っての通り、世の中で成功した多くの方は、小さい頃から夢を持っていますね。去年、並木中等の講演会に講師として来て下さった「ロボットスーツ」の考案者である山海先生もその一人です。そこで、今回からこの進路だよりの中で何回かに渡り、有名な方々にまつわる話を掲載したいと思います。

今回は、宇宙飛行士の星出彰彦さんについてです。1968年生まれ。並木中等の近所である私立茗溪学園中・高からシンガポール留学を経て、慶応大学工学部機械工学科を卒業。92年、宇宙開発事業団(NASDA)に入り、97年ヒューストン大学航空宇宙工学修士課程を修了。99年、日本人宇宙飛行士の候補者として選抜され、訓練終了後2001年1月、宇宙飛行士に認定。



宇宙飛行士

星出彰彦さんの夢・・・



(2002年3月6日 読売新聞掲載)

子どものころから宇宙飛行士になりたいという夢を持っていました。きっかけは、当時はやっていたアニメ「宇宙戦艦ヤマト」や、3歳から7歳まで過ごしていたアメリカで見たテレビ「スタートレック」に影響を受けて。ケネディ宇宙センターに見学に行ったことでさらに関心が高まってきました。

高校2年の夏、毛利衛さんが、日本人初の宇宙飛行士に選ばれたというニュースがあり、今後、2回目の宇宙飛行士の募集の可能性があり、スペースシャトルが定期的に打ち上げられるようになっていたことから、「職業として宇宙飛行士を目指せるかもしれない」と思うようになりました。宇宙飛行士になるには国際感覚と英語力が必要。それなら留学だと考え、高校2年からシンガポールのインターナショナルスクールに2年間留学しました。

授業がすべて英語で行われるため、最初の三か月は土日返上で猛烈に勉強しました。しばらくして見通しがついたら、そのあとは好きなことに熱中し、興味の向いたことには何でも取り組みました。でも「宇宙飛行士への夢」という一本の軸は通っていました。そのため「今の自分にできること」を考え、実行していました。

高校時代は日本、シンガポールともにずっと寮生活で、そこで人と助け合うことの大切さも感じました。宇宙ステーションは、様々な国の人のつながりで運営されます。どんな先端の技術でも、人間の協力関係なしでは成り立ちません。他人と出会うことで、新しい考え方や知識を身につけることは決してマイナスにはなりません。もちろんけんかもしましたが、他人と共有する時間というのは貴重でした。

アンテナを広げ、様々なことにチャレンジする。「何でも」できるのは今だけ。そんな時間を大切にしてください。



進路指導部の先生方紹介

進路指導部長	鮎川好夫 先生	4年次担当	早川尚人 先生
進路指導副部長	高橋俊和 先生	5年次担当	飯田 仁 先生
1年次担当	米田 剛 先生		槇野繁樹 先生
	北村真由美先生	6年次担当	関 義昭 先生
2年次担当	菊地英夫 先生		小松崎良一先生
3年次担当	豊崎泰史 先生		小室孝博 先生